

ムラクモキジビキガイの採捕

平成31年2月のトピックスで報告しました、ムラクモキジビキガイが令和5年2月8日に再び採捕されました。この貝は、環境省レッドリスト(2020)で準絶滅危惧に分類されており、東京湾でも水質悪化などの環境変化により絶滅したと考えられていました。

しかし、ここ数年盤洲干潟をはじめとして三番瀬や横浜、東京港などで少数ながら確認されはじめています(生物多様性センター※、盤洲干潟の調査結果(2020.9.29更新))。

今回採捕された場所は、前回の時と同じ多摩川河口です。前回は1個体のみでの採捕でしたが、今回は12個体とまとまって採捕され、生息数が順調に増加しているものと思われます。大きさは平均殻高が9.8mm(最小8.4mm、最大10.8mm)、平均殻幅が4.6mm(最小4.3mm、最大5.0mm)で、すべて成貝でした(図1、2)。

多摩川河口では当協会の事業によって毎年海底耕耘を行っており、このような環境改善が実を結ぶ貴重な事例となりました。



図1 採捕されたムラクモキジビキガイ



図2 ムラクモキジビキガイ (*Japanacteon nipponensis*)

※ : モニタリングサイト1000 2020年度干潟調査報告(環境省生物多様性センター)

(https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/tidal_flats_2020.pdf)